

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	カラフル・ピース 児童発達支援		
○保護者評価実施期間	令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31名	(回答者数) 29名
○従業者評価実施期間	令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 9名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年5月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	「親子通所」である。 その為、日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの健康や発達の状況について共通理解しやすい。	・保護者の子育てに関する相談や悩み事に即時対応できるようにしている ・支援者の子どもに対する関わり方を実際に保護者に見てもらいながら、保護者自身が家庭で取り入れられるように対応方法を学ぶことが出来るような関わりを意識している	・必要に合わせて個別での定期的なモニタリングを行う ・保護者から相談がある時のみではなく、支援者からもご家庭の様子などについて積極的に問いかけていく
2	子どものことを良く理解し、子どもの特性に応じた専門的な支援を行っている。子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成している。	・子どもの特性に合わせて環境を整えている(構造化、視覚呈示等) ・事業所で行っていることを、ご家庭でも取り入れていただけるようなアドバイスを行っている(スケジュールや絵カード、PECSなど)	・それぞれの職員が定期的に研修に参加し、支援の最新の情報を取り入れていく

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との関わりが少ない。	・社会資源の情報収集が十分でない	・現在は、外出支援を増やし地域に事業所のことを知ってもらうように工夫している。今後も継続して行っていく ・自立支援協議会の情報を適宜取り入れていくようにする
2	標準化されたアセスメントツールを、全員が使用し支援に活かすことが充分には出来ていない。	・アセスメントツールを作成しているが、個々によって使用する頻度が違う。また、個々によって活用方法に差がある	・個々が使用しやすい様式へ変更する必要がある ⇒ 様式を変更し周知を行った
3	支援開始前、終了後に職員間での打ち合わせや振り返りが充分に出来ていない(共に療育を行う職員同士では打ち合わせと振り返りを行い、引継ぎの必要がある時は伝えあっているが、全職員が参加出来ているわけではない)	・業務量、業務内容などによって、振り返りが個々になることがある	・一日のうちに全体でのカンファレンスを行い、振り返りと次回の打ち合わせが出来るように時間を設ける ⇒ 改善中であり定着してきた